

IR 委員会資料 2019-2020 年度\_授業改善アンケートより（演習、講義、実習）評価の低い項目一覧

\* 2019 年度は対面授業、2020 年度はオンライン授業のためアンケート回収率に差異がある。

\* さいたま看護学部は 1 学年のみ対象、広尾看護学部は 1～4 年が対象

## 授業種別ごとの傾向

### 1 看護学部

| (演習)                                          | 2019 年度 | 2020 年度 |
|-----------------------------------------------|---------|---------|
| ・実践的なレベルで技術及び方法を学ぶことができた。                     | 4.59    | 3.87    |
| ・私は授業後に演習内容を復習した（オフィスアワーを含む）                  | 4.48    | 3.73    |
| ・演習の時間配分は適切だった。                               | 4.26    | 3.88    |
| ・私は技術のプロセスを理解し、原則に基づいて技術を行えるようになった。           | 4.44    | 3.63    |
| (講義)                                          |         |         |
| ・授業の内容は興味のあるものだった。                            | 4.56    | 4.29    |
| ・教員の話し方（青陵、スピード、マイクの使い方など）は適切だった。             | 4.59    | 4.19    |
| ・授業の内容はわかりやすかった。                              | 4.54    | 4.21    |
| ・授業では、板書、書画カメラ、ビデオ（DVD）、パワーポイントなどの使い方が効果的だった。 | 4.56    | 4.18    |
| (実習)                                          |         |         |
| ・教員は、学生の考えを尊重しながら指導にあたっていた。                   | 4.59    | 4.61    |
| ・教員は、学生の大学での学びを理解して助言していた。                    | 4.61    | 4.44    |
| ・教員と実習指導者の連携が取れていた。                           | 4.44    | 4.35    |
| ・実習指導者は、相談しやすい雰囲気があった。                        | 4.59    | 4.37    |

### 2 さいたま看護学部

| (演習)                                          | 2020 年度 |
|-----------------------------------------------|---------|
| ・学生への指示・安全への配慮は適切だった。                         | 4.31    |
| ・演習の時間配分は適切だった。                               | 4.33    |
| ・私は技術のプロセスを理解し、原則に基づいて技術を行えるようになった。           | 4.18    |
| (講義)                                          |         |
| ・授業の進行速度は適切だった。                               | 4.46    |
| ・授業の内容はわかりやすかった。                              | 4.48    |
| ・授業では、板書、書画カメラ、ビデオ（DVD）、パワーポイントなどの使い方が効果的だった。 | 4.52    |

(実習)

|                                 |      |
|---------------------------------|------|
| ・ 学生は、自ら指導・支援を求めることができた。        | 4.82 |
| ・ 教員は、学生の考えを尊重しながら指導にあたっていた。    | 4.82 |
| ・ 実習指導者の助言は、実習目標の到達に活かせるものであった。 | 4.82 |
| ・ 実習指導者は、相談しやすい雰囲気があった。         | 4.78 |

2020 年度 広尾・大宮比較

(講義)

|                                                | 看護学部<br>(1～4 年生) | さいたま看護学部<br>(1 年生のみ) |
|------------------------------------------------|------------------|----------------------|
| ・ 授業の進行速度は適切だった。                               | 4.25             | 4.46                 |
| ・ 授業の内容はわかりやすかった。                              | 4.21             | 4.48                 |
| ・ 教員の話し方（青陵、スピード、マイクの使い方など）は適切だった。             | 4.19             | 4.53                 |
| ・ 授業では、板書、書画カメラ、ビデオ（DVD）、パワーポイントなどの使い方が効果的だった。 | 4.18             | 4.52                 |

(演習)

|                                      |      |      |
|--------------------------------------|------|------|
| ・ 学生への指示・安全への配慮は適切だった。               | 4.21 | 4.31 |
| ・ 私は授業後に演習内容を復習した（オフィスアワーを含む）        | 3.73 | 4.51 |
| ・ 実践的なレベルで技術及び方法を学ぶことができた。           | 3.87 | 4.39 |
| ・ 演習の時間配分は適切だった。                     | 3.88 | 4.33 |
| ・ 私は技術のプロセスを理解し、原則に基づいて技術を行えるようになった。 | 3.63 | 4.18 |

(実習)

|                                 |      |      |
|---------------------------------|------|------|
| ・ 学生は、自ら指導・支援を求めることができた。        | 4.51 | 4.82 |
| ・ 教員は、学生の大学での学びを理解して助言していた。     | 4.44 | 4.91 |
| ・ 教員は、学生の考えを尊重しながら指導にあたっていた。    | 4.47 | 4.82 |
| ・ 教員と実習指導者の連携が取れていた。            | 4.35 | 4.86 |
| ・ 実習指導者の助言は、実習目標の到達に活かせるものであった。 | 4.56 | 4.82 |
| ・ 実習指導者は、相談しやすい雰囲気があった。         | 4.37 | 4.78 |

結果のまとめ

- ・ 講義での「教員の話し方（青陵、スピード、マイクの使い方など）は適切だった。」「授業では、板書、書画カメラ、ビデオ（DVD）、パワーポイントなどの使い方が効果的だった。」は評価が低い事がわかった。
- ・ 演習に関しては看護学部の評価がさいたま看護学部の評価と比べて低い事がわかった。
- ・ 実習では、実習指導者とのかわりに関する評価が低い事がわかった。